

目指せ！「わっかない人（びと）」

～「稚内学」と「総合的な探究の時間」の学びを通じた地域貢献～

北海道稚内高等学校
学 級 数 15
(校長 蓮見 知之)

1 はじめに

本校は、日本最北端である北海道宗谷管内稚内市に位置し、全日制課程は、各学年、単位制の普通科3クラスと商業科1クラス、学年制の衛生看護科1クラスの計15クラスである。また、2年制の専攻科看護科2クラスを設置する多学科集合型の学校であり、令和5年度に創立100周年を迎える伝統校でもある。

2 「稚内学」導入及び計画策定までの経緯、並びに「わっかない人（びと）」について

(1) 背景

稚内市は、他の道内地域と同様に、人口減少に伴い、地域経済や産業の勢いは衰退してきており、これまで実施してきた地域と連携した教育活動においても感じとることができた。

この現状を踏まえ、2019年度より普通科及び商業科において単位制を導入するとともに、地域創生に資する高等学校改革を推進し、将来的には地域に貢献して地域を活性化する人材を育て、広い視野を持ったグローバル社会で活躍する人材を育成できるような「稚内型キャリアデザイン」の構築を目指すこととした。

(2) 「わっかない人（びと）」

前述の背景を踏まえた子どもたちの育成像について、生徒や職員、地域住民との対話をとおして集約し、2018年度、元紺谷前校長により生み出されたのが「わっかない人（びと）」である。

日本最北の地・稚内には豊かな自然から生まれた水産物や農畜産物がたくさんある。これらを活かして生産された産品や稚内が誇る文化・自然等の地域資源を「稚内ブランド」として認定し、広く国内外に発信することで、稚内の知名度を向上しようとする取組が行われている。

この「稚内ブランド」に、稚内が育んだ人＝「わっかない人」を加え、認知度は低いがいずれ全道、全国に「わっかない人」が広ま

ることを夢見ている。

稚内高校は稚内ブランド「わっかない人」育成に全力で取り組むことを宣言する。

○グローバルな視点を持ち、ローカル稚内で活躍する人材

○ローカル稚内をこよなく愛し、グローバル社会で活躍する人材

この標榜は「稚内市教育連携会議」においても共有され、幼保小中高大の学校種間の切れ目のない接続を目指し、地域と共にある学校づくりのキーワードとなっている。

3 「稚内学」（第1学年1単位必修）について

「わっかない人（びと）」を育成する手がかりとして、生徒たちの現状を見ると、「地域の特性について理解が不足していること」、「地域の課題解決策や振興方策等の視点を持ち合わせていないこと」を確認することができた。

(1) 科目目標

科目目標は「稚内市の地理的特徴や発展の歴史、文化的特徴に関する基礎的内容を学習することにより、郷土に対する理解を深め、郷土に対する愛情と貢献意識を高めることで、地域の担い手となる人材の育成を図る」であり、この目標を達成させるため、学校運営上の4領域（「ALL 稚内高校による指導」・「地域との連携による指導」・「学校間連携」・「産業界・行政との連携」）に係る目標を設定した。

(2) 取組について

具体的取組として、自分たちの稚内地域に対する過去・現在・未来への理解と思考の到達度を推し量ることができる「稚内観光マイスター検定（初級）」（稚内観光マイスター推進委員会発行）の合格を1つの指標として設定した（令和2年度の合格率は97%）。

検定受検後の11月以降は、郷土探究のテーマ（自然、歴史、文化、産業、観光、樺太関連、アイヌ民族及び北方先住民族関連、地域医療問題の

領域)を設定し、各グループに分かれ聞き取り及び研究調査を実施し、3月に、その成果を郷土研究発表会として全校生徒、保護者及び地域の方々へプレゼンテーションを行った。

4 「稚内学」を中心とした稚内市教育連携会議

2018年度に本校が設定した「わっかない人(びと)」を踏まえ、子どもの学力を高め、人格を磨くキャリア教育の充実を呼びかけ、稚内高校・稚内大谷高校・稚内北星学園大学による高大連携コンソーシアムを締結した。

2019年度の本校の「稚内学」開始を契機に、その意義と教育的意味付けに共鳴していただき、2020年度に、全市的にキャリア教育を推進することとした。

5 「総合的な探究の時間」における「稚内企業図鑑」の作成

(1) 概要

1年時に「稚内学」を修得した2学年を対象にした「総合的な探究の時間」における活動として計画した。

「稚内学」での学びを生かし、「市民に向けた、稚内に就職したくなる魅力の詰まった『企業図鑑』」を制作し、現在地域に根ざしている地元企業の魅力を知り、それを発信することで、地元稚内市に貢献することによる自己有用感の獲得を目指した。

(2) 活動スケジュール

①前半(9月～インターンシップまで)

はじめに企業図鑑の製作、地域への配布等の探究活動の大まかな流れを説明した。その後、インターンシップのグループに分かれ、「インターンシップ先の魅力ある紹介を、A4用紙1枚で作成しなさい。」という小さな探究課題に取り組みせ、イメージ作りをした。

②後半(インターンシップ後～3月まで)

企業研究の全体説明とグループ分けを行い、調査活動について整理した。整理した後、教員による指導を受けて方向性の確認を行った。また、高大連携事業により、「質問のコツとインタビューの練習/紙面作りの体験」をテーマに、稚内北星学園大学から講師を招聘しワークショップを実施した。

また、冬季休業期間には企業へのインタビュ

ーを実施した。「調査している企業の魅力を引き出すためにどのような情報を入れたか。また、どのような点を工夫したか。」という視点で後述の成果報告会を開催するとともに、1学年に発表活動を紹介させることにより、次年度の就職活動等に向けた準備を充実させた。

その後、他のグループとの情報交換を通して、より一層魅力のある企業図鑑の完成に向け、各グループは互いに良さを取り入れ、更によりよいものを作ることに努めた。

6 「郷土研究発表会」及び「探究成果報告会」について

1年間の集大成として、1学年は「稚内学」での学びをテーマにしたプレゼンテーション、並びに2学年は「企業図鑑」作成にむけた調査活動についてプレゼンテーションを実施した。

当日は、工藤稚内市長をはじめ大学、中学校、地元企業、市立病院等から代表の方5名を審査員として依頼し、生徒の発表内容を評価していただいた。

また、関係機関より40名以上の参観者を迎え、新聞等各メディアでも取り上げて頂き、当初の目的を達成する足がかりをつけることができた。

医療問題をテーマに発表した1学年衛生看護科の生徒は「身近な地域の看護師不足は稚内学で知った。将来、稚内で看護師として働き、地域の医療を支える人材になりたいと、改めて考えるようになった。」と話すなど一定の成果が見られた。

7 今後の展望

2021年度(令和3年度)に単位制が完成し、その設置した目的をあらゆる教育活動の中に統一して展開することができることになる。

2年間の「わっかない人(びと)」育成に結実する諸活動については、それぞれに成果を確認できるものの、キャリア教育という学校の学びと実社会のつながりがもたらす「生きる力」の育成を継続することが重要である。

今後も、産学官民が協働で本校生徒のみならず、地域の子も達が、将来地元を愛し、地元に貢献する意欲を高められるような働きかけに、本校の教育活動が一助となれるよう、実践する。